

『月に吠える』刊行100年記念〜マンドリンのまち前橋〜

朔太郎音楽祭2017



月に吠える。

Sakutaro Ongakusai 2017

Festival Orchestra Concert

2017.10.15 sun

昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館) 大ホール 14:00開演(13:00開場) 入場無料

主催 ~マンドリンのまち前橋~ 朔太郎音楽祭実行委員会

共催 前橋市、前橋市教育委員会、(一財)前橋市まちづくり公社

後援 (一社)日本マンドリン連盟、前橋商工会議所、(公財)前橋観光コンベンション協会、東日本旅客鉄道株高崎支社、朝日新聞社前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、高崎前橋経済新聞、東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、NHK前橋放送局、東エフエム放送、群馬テレビ、BSフジコムイースト群馬局、まえばしCITYエフエム

協賛 アクサ生命保険前橋営業所、朝倉製菓、伊香保 五もちゃん人形、自動車専門学校、伊香保グリーン牧場、東エフエム群馬、まおとわ花ショップ、ネクライム、群馬県民会館、くまがら丸協賛組合、群馬県銀行、群馬総合ガードシステム、群馬トヨペット、群馬田村自動車、群馬ヤクルト販売、有休業社のイグナ、現代仏蘭西料理(前橋店)、小林工業、佐藤建築地理士事務所、ネサンワ、GNホールディングス、ネグリーシー、前橋公園観光、高村楽器、清水タグシー、社会保険労務士中野事務所、ジャックプラン、上毛倉庫、香箱木ストア、ネステージサービス群馬、西毛製菓、ネ総合PR、損害保険ジャパン日本興亜、損保ジャパン日本興亜、まわり生命保険、高野野店、英歌がらす本舗、清月堂、まきさくらホテル、中央カレッジグループ、ネ中央機械協会、ネ中央ビジネス、ネ天国社中央、ホテルサンダーソン、前橋地産行、富沢組工業、ネ豊利平、永井運輸、ネ永井組、中塚商事、ネ西康、日本ピアノホールディングス、ネピアラザ群馬、ネットヨク群馬、源部不動産、富貴興材、龍河造機、ネヒロタ、ファームドゥ、福島産産、ネブレン、ネアーショップコバヤシ、ネホテルルカ、ネホングカース群馬、ネマエタスタジオ、(公財)前橋観光コンベンション協会、前橋観光サービスセンター、前田建設、マチダマーケティング、ネ丸せ組工、三友工業、宮下工業、三山アドコス生コン、横山公認会計士事務所、ネ吉田荘王座、理容ハルナ建設



Sakutaro Ongakusai 2017

Festival Orchestra Concert

朔太郎音楽祭

2006年(平成18年)は前橋市が生んだ詩人、萩原朔太郎の生誕120年でした。朔太郎は自分でもマンドリン用の曲を作曲するなど、マンドリンをこよなく愛していました。そこで、朔太郎とマンドリン音楽の融和を図りマンドリンを前橋市の文化として定着させることなどを目的として「前橋マンドリンフェスタ2006」を開催しました。

2007年(平成19年)以降は、名称を「～マンドリンのまち前橋～朔太郎音楽祭」と改め、さらなる「マンドリンのまち前橋」の発展に努めています。音楽祭10周年を迎えた2015年から、マンドリン音楽の第一人者青山忠氏が音楽監督に就任し、高校生部の部、社会人・大学生の部と二つのフェスティバルオーケストラを結成して、より高度な演奏を目指しています。さらに、朔太郎の詩に新たに曲をつけ初演するなどその活動を広げています。

今年は、広く一般の参加者も加わり大編成のオーケストラでお贈りします。

萩原朔太郎

明治19年(1886年)～昭和17年(1942年)。詩人。父密蔵は前橋の開業医。前橋中学校卒業後、熊本の第五高等学校、岡山の第六高等学校に進んだが中退。大正6年、第一詩集『月に吠える』によって、日本近代詩に不滅の金字塔を打ち立てました。今年は詩集刊行からちょうど100年に当たります。朔太郎の詩業は、近代的思想を感覚的に書き上げ、わが国における口語自由詩を確立しました。『青猫』『水島』などの詩集のほか、多くの評論集があります。

マンドリンと朔太郎

前橋中学に在学中だった萩原朔太郎は、父から貴重な輸入マンドリンを買い与えられます。前橋中学卒業後、熊本五高など中退し東京での生活を送りますが、その間、マンドリン指導者・比留間賢八らにマンドリン・ギターを習いました。やがて帰郷し音楽と詩作活動を併行して展開、朔太郎は前橋で音楽愛好家を集め「ゴンドラ洋楽会」(のちの「上毛マンドリン倶楽部」=群馬交響楽団設立母体のひとつ)を設立し、再び上京するまでの10年間自ら指揮者として県内各地で熱心に演奏活動を行いました。朔太郎は群馬におけるマンドリン音楽、ひいてはクラシック音楽の先駆者でもあったのです。



フェスティバルオーケストラ出演者

青山 忠(音楽監督・指揮)

2015年より朔太郎音楽祭音楽監督。NHK交響楽団、読売日本交響楽団など日本の主要なオーケストラと多数共演。熊川哲也主宰 Kバレエカンパニー公演「ロミオとジュリエット」に参加。映画では、「クロズド・ノート」「スノープリンス 禁じられた恋のメロディ」「奇跡のリンゴ」「風立ちぬ」などの劇中にてマンドリンやバラライカを演奏。テレビでは、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲2」や、昨年4月から放映されたNHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」などの劇中にてマンドリンを演奏。シンガーソングライター山梨鏡平、歌手石野真子のライブやレコーディングに参加。2014年に久石讓&ワールド・ドリーム・オーケストラのコンサートにゲスト奏者として出演。全日本マンドリン合奏コンクール審査員を務める。マンドリン合奏団の指導や楽譜の出版にも力を注ぐ。これまでに21枚のCDをリリースしており、今年4月にリリースされた「弦色浪漫12」も好評発売中。

群馬県立前橋高等学校ギター・マンドリン部

私達、前橋高校ギター・マンドリン部は、1、2年生合わせて22人で活動しています。コンクールや定期演奏会、そして音楽三部合同演奏会である優曇華に向けて、男子校ならではの力強い演奏を目指して日々練習に励んでいます。本日は私達を応援してくださっている皆様への感謝の意を込めて精一杯演奏したいと思います。

群馬県立前橋女子高等学校ギター・マンドリン部

前女ギター・マンドリン部は、今年で創立54年。全国高等学校ギター・マンドリンコンクールには、今年で29回連続出場を果たしました。35年の長きに渡り指導いただいた、萩原朔太郎の孫弟子にあたる両角文則先生が目指した「優雅で繊細、可憐で愛らしい」音色で、「人を幸せにする音楽」を継承し、上野先生、松島絵里奈先生のご指導のもと、日々楽しく活動しています。

群馬マンドリン楽団

近代詩人 萩原朔太郎のマンドリン活動の孫弟子にあたる両角文則氏が創設、今年で創立48年を迎えます。2014年に両角氏が急逝し、代表音楽監督に町田文善が就任。故人の遺志を継ぐ団員と数多くの支援者の力を合わせながら積極的に活動を続けており、11月12日の第53回定期演奏会(於:昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館)小ホール)に向けて練習を重ねているところです。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

前橋マンドリン楽団

詩人、萩原朔太郎は詩作の一方、マンドリン音楽に熱中し、1616年(大正5年)ゴンドラ洋楽会(後の上毛マンドリン倶楽部)を主宰、県内各地で演奏会などを行いました。この活動は後の群馬交響楽団を生み、また、県内のマンドリン音楽振興の礎となりました。私たちの前橋マンドリン楽団はこの上毛マンドリン倶楽部の流れをくむ楽団として、昭和41年に発足し、昨年50周年を迎えました。楽団員は約40名、会社員、公務員、家庭の主婦などが集まり、毎週2回の練習を通して合奏を楽しんでいます。年1回の定期演奏会及びサマーコンサートの他、各種のイベントへの参加や福祉施設等への出前演奏なども行っています。

主にマンドリンのためのオリジナル曲を中心として演奏活動を行っており、鈴木静一、久保田孝、丸本大吾氏など、近・現代の作曲家による作品群に挑戦する一方、日本の歌曲やポピュラー曲の演奏も聴衆の皆さんとともに楽しんでいます。

ラバース・マンドリンクラブ

私たちは、前橋市の成人学級のマンドリン科卒業生によって結成されました。その後、新たな仲間も加わり、今年で結成37年を迎えました。毎週木曜日の夜、小林憲之輔先生の厳しくも優しいご指導の下、童謡からクラシックまでジャンルを問わず楽しく練習しています。マンドリンはもとより、マンドラ、ギターのお好きな方大歓迎です。お仲間になっていただければ幸いです。

Pre-Event

「前橋原風景写真展」10月11日(水)～10月16日(月)

昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館) 大展示ホール 観覧無料

～マンドリンのまち前橋～ 朔太郎音楽祭実行委員会事務局
〒371-0022 前橋市千代田町3-12-10
水と緑と詩のまち前橋文学館内 TEL.027-235-8011

お問い合わせ